

令和3年11月13日（土）、長崎市内において、「令和3年度ながさき農林業大賞」の表彰式が行われました。これは、県内各地で地域の特性を活かしながら魅力ある農林業経営を展開している優れた農林業者を表彰するもので、県央振興局管内からは、6経営体1組織が受賞されました。

受賞された皆様の今後ますますのご活躍を祈念いたします。



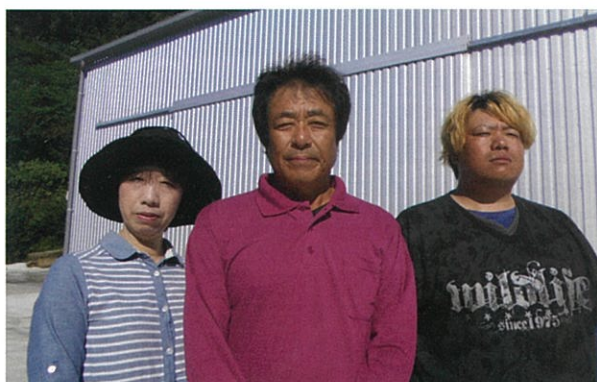
長崎県知事賞

トップファーマー（露地野菜部門）

中山 茂光さん・智恵さん・竜斗さん
一憲さん・カズエさん（諫早市）

【経営概況】

1. ばれいしょ 430a
2. にんじん 240a
3. だいこん 150a



【主な受賞理由】

- ①基盤整備地の農地集積により、作付のべ面積は 820a となり、大幅に増加。規模拡大に対応するため、作業委託、省力化機械導入を推し進め、地域の省力化経営モデルを確立。
- ②共同機械利用組合の設立、土づくり機械（マニアスプレッタ、深耕ロータリ等）の導入と普及、だいこん省力機械、にんじん収穫機など地域の先頭になって導入。無人ヘリによる防除作業委託の導入など、規模拡大と併せた作業省力化を推し進め、地域のゆとりある農業経営確立に貢献。
- ③25年間、長崎県ばれいしょ部会長、JAながさき県央ばれいしょ部会長など役員を歴任。さらに、JAながさき県央飯盛だいこん部会を発足させ、1億円産地の育成に寄与。

トップファーマー（施設野菜部門）

株式会社 深山農園（諫早市）
（代表取締役 深山 繁樹さん）

【経営概況】

1. いちご 71.5a

【主な受賞理由】

- ①雇用を中心とした「ゆとりある経営」を目指し法人化。作業者はすべて地元の方を雇い、産地の維持並びに地域の雇用に大きく貢献。あわせて、研修生や雇用している若手従業員を技術者として育成しており、担い手育成にも寄与。
- ②他産地に先駆けてスマート農業の1つである環境制御技術に取り組み、長崎県のいちご環境制御技術確立に寄与。県内のいちごで初の統合環境制御システム、自動換気装置を導入するとともに、パック詰め作業においても自動フィルム張機を活用するなど、積極的に作業の省力化や作業環境の改善に取り組む。
- ③令和元年より、いちごを「冷凍いちご」として加工。県内の菓子業者（3社）へ販売し、販路拡大。
- ④諫早市認定農業者協議会高来支部、JA ながさき県央いちご部会南部支部の役員、令和2年より県農業士など地域のリーダーとして活躍。



トップファーマー（果樹部門）

有限会社 下木場農園（長与町）
（代表取締役 山口 浩司さん）

【経営概況】

1. 温州みかん 583a

【主な受賞理由】

- ①省力化機械類の導入や園内道、モノレールを整備するなど省力化に取り組んでいる。計画的に需要が高い品種への改植を進め、樹齢が若い樹の比率を高め、樹型をコンパクトに維持し、作業の軽労化も実現。
- ②結実園ではシートマルチを被覆し、品質向上に取り組む。また1haで巻き上げ式マルチやドリップ灌水を実施するなど、干ばつ時や収穫後の樹勢回復に活用。樹勢や気象条件に応じて植物成長調整剤を有効活用し、省力化、高品質化を実践。
- ③平成17年頃開発されたマルドリ栽培を県内でいち早く導入し、気象の影響を受けにくい、高品質果実生産に取り組む。急傾斜地でも収益性が高い柑橘経営を実践。また、農業士や町の認定農業者会副会長として、後継者育成や農業振興に大きく貢献。



いきいきファーム（産地集団部門）

長崎西彼農業協同組合 ことのうみいちご部会
（長崎市）
（部会長 平利樹さん）

【組織の概要】

旧琴海町を中心とした部会員15経営体
作付け面積3.3ha(平均22a/戸)の生産部会

【主な受賞理由】

- ①目標単収2万パック達成に向け、日頃の情報交換や意識統一を進め、栽培技術の徹底を基本に、環境制御や多収品種「ゆめのか」等の新技術・新品種を導入し、平成27年度以降、連続で県内1位の単収を実現し、全国3位の県単収を牽引。
- ②担い手の確保・育成にも力を入れており、産地の生産者の現状と将来を見える化した「担い手育成計画」の策定や、JAのハウスリース事業と担い手育成支援センターとの連携を積極的に進め、この5年間で新規就農者を5名確保するなどの成果あり。
- ③経営面の活動として、経営の振り返りから経営改善につなげる個別経営面談等、産地の維持発展を視野に入れた幅広い活動を展開し、本県のいちご産地の牽引と地域農業の振興に大きく貢献。



げんきビレッジ(農山村地域保全部門)

合同会社ながさき夢ファーム（長崎市）
（代表社員 溝口博幸さん）

【会社の概要】

平成18年、有害鳥獣対策及び地産地消に向けた特産品開発を目的に、有志5名で「うまかぼたん処理販売組合」を設立。その後、農事組合法人を経て、合同会社を設立。

【主な受賞理由】

- ①長崎市より有害鳥獣対策相談等業務、加工処理場事務を委託。市民からの相談(年間1,000件)、現地調査、対策指導・支援、食肉加工処理・販売までを行なう総合的な鳥獣対策の専門集団として、市の農作物被害の減少と自治会等による地域の生活環境改善に貢献。
- ②被害相談を適正な鳥獣対策を広める機会としてとらえ、地域に入り込みコンサルティングを実施することで、狩猟免許を持たない住民も参加できる「捕獲隊」の結成を支援。「自分たちでできることは自分たちで」との機運醸成を進め、防護柵の設置・維持管理指導など、地域ぐるみの有害鳥獣の捕獲対策に貢献。
- ③ワイヤーメッシュ防護柵の設置を推進し、平成25年度から令和2年度までの8年間で、約733kmの整備に貢献し、併せて防護柵の適切な維持管理を指導することで、農作物被害の減少に大きく貢献。
- ④捕獲個体を有効活用するため、徹底した衛生管理と高い処理加工技術により、従来の獣肉の悪いイメージの払拭に向け、食肉の販売やハム、ソーセージ、ジャーキーなど多彩な商品開発を行なうことで、地域ビジネスに積極的に取り組む。



運営委員会長賞

【トップファーマー／果樹部門】 中村弘也さん（波佐見町）

【げんきビレッジ／集落営農・地域営農部門】 農事組合法人 岳辺田（波佐見町）



中村弘也さん



農事組合法人 岳辺田

地域農業振興協議会長賞

長崎・西彼地域

【露地野菜部門】 (有)ファームまるだ(西海市)

【施設野菜部門】 作本充博さん由美子さん(長崎市)

【畜産部門】 宮下栄治さん(西海市)

県央地域

【花き部門】 榎後田花園(諫早市)

【畜産部門】 東川健治さん(諫早市)

【特産部門】 末永義行さん(東彼杵町)

【産地集団部門】 長崎県央農業協同組合
大村カーネーション部会(大村市)



九州・沖縄地区代表に選出！

全 域

令和3年度九州・沖縄地区青年農業者会議が7月14日、15日にオンラインで開催されました。

意見発表部門において小川未来さん(大村市青年農業者会)が「経験を力に農業を楽しむ」と題し、またプロジェクト活動部門において、大場将宗さん(東彼杵町青年農業者連絡協議会)が「レンタル青年パワー～青年の活力で地域活性化～」、山口隆太郎さん(大村市青年農業者会)が「ノウフク～目指せ！OMURAモデル～」という課題名でそれぞれ長崎県代表として発表を行いました。審査の結果、意見発表部門で小川さんが最優秀賞に輝きました。また、プロジェクト発表の地域活動部門で大場さんが部門1位に選出されました。2人は九州・沖縄地区代

表として令和4年3月に東京で開催予定の全国大会に出場されます。

全国大会でのご活躍を期待しています！



村里振興局次長 小川さん 大場さん 山下振興局長